

総合評価

1. 目標達成状況

・活動領域ごとに目標達成状況を数値化し、達成率を算出した。

(できた:4点 どちらかというとききた:3点 どちらかというときできなかった:2点 できなかった:1点)

・すべての項目が「できた:4点」の満点の数値が目標値である。

	活動領域	目標数	点数内訳				達成値	目標値	達成率
			4点	3点	2点	1点	(a)	(b)	(a÷b×100)
1	展示	8	5	3	0	0	29	32	90.6
2	教育普及	2	2	0	0	0	8	8	100.0
3	調査研究	3	2	0	0	1	9	12	75.0
4	資料の収集・保管・活用	6	1	0	1	4	10	24	41.7
5	博物館連携	3	2	1	0	0	11	12	91.7
6	博学連携	6	2	0	2	2	14	24	58.3
7	広報活動	5	5	0	0	0	20	20	100.0
8	参画と協働	4	4	0	0	0	16	16	100.0
9	管理運営	2	1	0	1	0	6	8	75.0
総合評価		39	24	4	4	7	123	156	78.8

2. 自己評価の総括

- ・「展示」「教育普及」「博物館連携」「広報活動」「参画と協働」についての達成状況は良好である。
- ・「調査研究」「管理運営」についてもまずまずの達成状況である。
- ・「資料の収集・保管・活用」については、リニューアルオープン直後で取り組むべき課題が多かったことから、目標設定した課題に着手できなかった。
- ・「博学連携」については、達成率は低いが、リニューアルオープン前(コロナ禍前)である平成30年度と比較すると、学校団体受入数はほぼ同数に回復し、教員セミナー参加者が大幅に増加するなど、手応えを感じている。

3. 外部評価の意見 (●は指摘事項)

(1)「1. 展示」

【展覧会】

- 特別展、企画展は見ごたえのある内容だった。研究成果が展示の裏打ちとなっている。それは「満足度」の数字も物語っていると考える。
- 「ひょうご鉄ものがたり」のたたら動画は非常にわかりやすかった。
- 入場者数を増やすため、講演会などの機会を増やしていくこと。
- 入場者数の目標達成率がともに五割程度にとどまっているのは残念である。

【常設展】

- ハンズオン資料のバリエーションを増やすこと。
- 音声ガイドやキャプションなどを多言語化し、鑑賞ツールの充実などを計画的に進めること。

【共通】

- 「実物を五感で知る」という博物館ならではの役割を念頭に事業を実施していくこと。

(2)「2. 教育普及」

- シンポジウムの開催、児童、生徒向けのプログラムを拡充し、出張展示の機会も増やすこと。
- 地域と地域の結びつきを発見し、わが町を知るきっかけづくりをしていくこと。

(3)「3. 調査研究」

- 目録作成について、別の分野や資料群の目録化など、できるところから先行着手していくこと。

(4)「4. 資料の収集・保管・活用」

- 研究論文の発表ははじめ収蔵品データベース登録の拡充について、よく達成されている。
- 人手不足により史料のデータベース化が遅れているのであれば、広く参加者を募ったり、既存の組織とコラボしたりして進める計画があっても良いので、何か前進することを目指して取り組むこと。
- 収蔵資料の計画的修復の実施が0%なので、計画的かつ有効な予算措置を講じること。

(5)「5. 博物館連携」

- 地元紙を媒介として、歴博・姫路市立文学館・姫路市立美術館の3館が協働し共同広報ポスターの制作が実現したことは目標の第一歩である。
- 今後は、共通テーマによるイベント開催や各館の専門性を相互に生かした連携企画の実現など、持続可能な連携関係の醸成を検討すること。

(6)「6. 博学連携」

- 教員研修については、今後も実りある研修となるように、学芸員と教員との相互交流の時間、講師の解説時間(実践の意味付け)を充実させ、実施していくこと。
- 電子機器類による学習ツールの開拓と合わせて、ガイドボランティアや対話型鑑賞など対面による教育普及プログラムの継続・強化を進めること。
- 教育普及や博学連携にもつながるコンテンツになりうる、授業でタブレット活用できる動画の制作に努めること。

(7)「7. 広報活動」

- 館の広報印刷物が、市内の多くの施設に置かれ、また神戸新聞で数多く報道されており良かった。
- 展覧会の集客に繋がる広報・宣伝に特化して、多角的に検討・検証すること。
- 県民だより、姫路市広報に歴史博物館も取り上げるよう検討すること。

(8)「8. 参画と協働」

- 友の会活動にも大変ご協力いただき感謝している。

(9)「9. 管理運営」

- 充実した業務推進状況がよく理解できた。
- 少ない人数で膨大な量の業務を遂行され、市民、県民に喜ばれる状況であった。
- コロナ、館の修復工事を経て、さらにファンが増大傾向にあると思われる。
- 各職員の持ち味を活かした取り組みが行われているように思われる。

4. 当面の課題

・達成率が低い活動領域について重点的に課題設定を行い、その解決策を検討した。

(1)「1. 展示」

- ・ハンズオン資料を継続して増やしていく。
- ・キャプションや音声ガイドの多言語化など、鑑賞ツール充実を計画的に進める必要がある。

(2)「3. 調査研究」

- ・収蔵資料目録の刊行に着手できていない。

(3)「4. 資料の収集・保管・活用」

- ・資料の修復や修復が必要なリストの作成が進んでいない。
- ・収蔵資料目録や当館ホームページなどによる収蔵資料の公開が進んでいない。

(4)「6. 博学連携」

- ・学校団体による当館の利用が増えておらず、そのための適切な対策が行えていない。
- ・対話型鑑賞など、対面による教育普及プログラムを検討し、強化する必要がある。

5. 課題解決に向けて

(1)「1. 展示」

- ・キャプションや音声ガイドの多言語化など、“こどもはくぶつかん”、“ひょうごの祭り”などから段階的に鑑賞ツール充実に向けて取り組みを進めていく。

(2)「3. 調査研究」

- ・収蔵資料目録については刊行可能な分野について優先的に作業を進めていく。

(3)「4. 資料の収集・保管・活用」

- ・博物館資料の修復について、まずは必要性や優先順位の把握に努めるとともに、関係部局と協議・連携し、また館内でも民間の補助金の利用ができるよう協議し、引き続き予算の確保に努めていく。
- ・デジタルアーカイブなどによりこれまで以上に当館の収蔵資料の公開を行う。当館のホームページから館蔵資料の公開が可能となるような枠組み作りを行う。
- ・データベースへの資料の登録を進めるとともに、個々の登録データへの画像の登録も増やしていく。

(4)「6. 博学連携」

- ・当館の展示や館蔵資料などを素材とした、動画や教育用のコンテンツを作成し、学校団体による当館の利用を促進する。